

5. 今月のトピックス 「チャノミドリヒメヨコバイについて」

1. どんな虫？

茶の新芽を加害する微小な害虫です。成虫の体長は 3mm 程度、横に歩くのでヨコバイと名付けられています。通称「ウンカ」と呼ばれることもあります(図 1)。



図 1 チャノミドリヒメヨコバイ成虫

2. 生態と被害

三重県では成虫で越冬し、新芽が動き出す 4 月中旬頃から活動を始め、年間 5~8 世代発生します。二茶期から秋にかけて発生が多くなり、新芽の伸長とともに発生が増加します。特に、二茶期以降に晴天が続くと多発します。また、南面の暖かい傾斜園や風通しの悪い園、台切り更新園や幼木園で発生が多くなる傾向があります。

加害された新葉は、吸汁痕付近から葉脈が褐変し、葉全体が黄色くなり、新芽が萎縮します。吸汁された痕が褐色の斑点状に見えることもあります。たびたび赤葉枯病を併発して、新葉の先端が褐色~黒褐色を呈し、ひどい場合は落葉します(図 2)。



図 2 吸汁による赤葉枯病の併発状況(松阪市嬉野中川町 2012 年 7 月 10 日撮影)

3. 防除

農薬による防除が基本です。新芽の開葉初期に防除することが重要です。集団茶園では一斉防除により効果的に防除できます。農薬はラベルを確認して正しく使用してください。また、農業研究所茶業研究室(亀山市)における発消長のグラフ(図 3)を病害虫防除所ホームページで提供していますので参考にしてください(<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/>)。

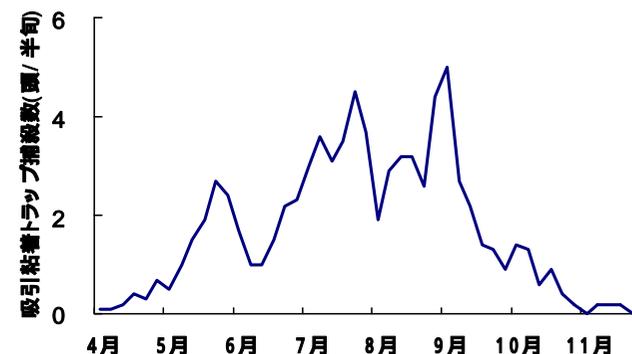


図 3 チャノミドリヒメヨコバイ発消長(亀山市:茶業研究室) 吸引粘着トラップによる半旬ごとの捕殺数。過去 10 年間(2002~2011 年)の平均。